

# Monthly Report

Vol.62 / 2011 Jun.

みなさんの心がけが大きな節電効果に



**電気は少なめ、  
元気は多めで、  
営業してます。**

節電営業中につき、ご理解とご協力を、お願いいたします。

がんばろう!  
東北

2011 東北地方太平洋沖地震

復興支援ポスター配布サイトより

今夏は東日本大震災における電力供給不足に対応するため、東京電力と東北電力管内の事業所には15%の節電が求められています。本学でも学生・教職員が一丸となって「こまめな消灯」、「待機電力の削減」などの節電に努めていきましょう。

## 目次

みなさんの心がけが大きな節電効果に	1
朴沢学園資料仙台市文化財指定	3
みやぎ県民大学開講 学校支援ボランティア懇談会	4
ヨークベニマルにポップ登場 5体に国際交流コーナー	6
留学生在「華道」体験 入試懇談会	7
ボランティアに対する御礼状	7
奥莖博亮さんがベガルタ仙台とプロ契約	12
学生の活躍	14

学生の活躍や、取組みをご存知でしたら  
広報室までお寄せください。

Monthly Reportで紹介する他、報道機関  
にも旬な話題を提供していきたいと考えて  
おります。

本誌へのご意見・ご質問等がございましたら、  
広報室までご一報ください。

### 広報室

直通 0224-55-1802

内線 佐藤美保 256

土生佐多 200

伊東宏之 271

Email:kouhou@scn.ac.jp

## 朴沢学園の「裁縫教育資料」が仙台市文化財指定



仙台大学の母体である学校法人朴沢学園が所有する明治から昭和初期にかけての裁縫教育資料などが、7月1日付けで仙台市文化財に指定されることとなりました。今回、仙台市文化財指定を受けるのは、掛図352点、朴澤三代治編纂「裁縫教授書」

等教科書類36点、課題研究提出物161点、研究会記録8点の計557点です。文化財指定にいたったのは客員教授で地域連携コンサルタントの伊達宗弘先生にご尽力いただき、一昨年の朴沢学園創立130周年の節目の年にあわせて「朴沢学園130年の歩み」と「朴沢学園公文書資料集」13巻の編纂を行っていただいたのがきっかけとなりました。

朴沢学園には今回指定される資料の他にもまだ膨大な史料があり、今後も調査が行われる予定です。今回の指定をきっかけに、今後は宮城県文化財

や国指定文化財への期待も高まっています。いずれにしても朴沢学園内で永きに渡り受け継がれてきた歴史的財産が、文化財指定を受けたことでより多くの人々の目にふれる機会を得ることは朗報であると同時に、日本におけるファッションの変遷を知るための貴重な史料としても各研究分野への貢献が期待されます。

これらの資料は仙台市からの申し出で、仙台市歴史民俗資料館で企画展に展示されます。是非、足をお運びください。

### 企画展「教科書でたどる学都仙台の200年」

場所：仙台市歴史民俗資料館

(仙台市宮城野区五輪一丁目3-7)

期間：7月16日～9月18日 9:00～16:45

休館日：毎週月曜（祝休日を除く）、祝休日の翌日、毎月第4木曜

入館料：一般・大学生200円

## 第74回 学術集会 新任教員発表会開催



6月14日（火）A棟2F大会議室において、今年度初めての学術集会が開催されました。

開会後の丸山研究科長挨拶では「健康福祉学科開設平成7年、当時副学長の故朴澤二郎先生が、全教員が研究者として所属する学内組織として学術会を立ち上げました。これにより仙台大学の先生方が互いの研究を知る身近な場とさせたい」ということで、学術集会を開催するようになったことなどが紹介されました。

今回は、今年度はじめての開催ということで4月に本学へ着任された8名の先生方（高成田享先生

は、震災復興会議出席のため欠席）による発表が行なわれ、それぞれの先生方の前職における多彩な経験談などが披露されました。その後17:00からは新任教員の先生方を囲んでの懇親会が催され、発表内容への質問がなされるなど和やかな会となりました。

(敬称略)

1. 都道府県警察の仕事について(宮城県警の例)  
飯塚公良夫
2. 皇居警察で培ったもの  
伊藤 重孝
3. 「2050年に地球は養えるのか・・・FAOの問いかけ」  
遠藤 保雄
4. 高校の全県一学区及び男女共学について  
大内 悦夫
5. 参加者の自然に対する態度に影響を及ぼす  
キャンプ体験～ウィルダネス体験に着目して～  
岡田 成弘
6. 言語脳科学と外国語教育  
佐藤 滋
7. スポーツでデスティネーションマーケティングを試みる  
柴田恵里香
8. 平成23年度全日本柔道選手権大会に出場して  
仲田 直樹

## 平成23年度みやぎ県民大学仙台大学開放講座 開講



6月17日（金）に平成23年度みやぎ県民大学仙台大学開放講座が開講しました。今年もたくさんのご応募をいただきまして、募集定員を超える59名の方々に受講いただいております。

今年の講座のテーマは「自宅でできる簡単健康福祉術」で、自宅でも簡単にできる応急手当や

介護術、健康生活法などを4回にわたって楽しく学んでいきます。

開講式後に行われた第1回講座では、「自宅でできる簡単 応急手当と熱中症予防」と題して、3名の先生方が講師を務めました。庄子講師からは湿潤療法、渡会助教からはアイシング法、津吉講師からは栄養面から水分と塩分の摂取等についての指導がなされました。

6月17日 開講式・「自宅でできる簡単 応急手当と熱中症予防」

6月24日 「自宅でできる簡単 介護術」

7月1日 「自宅でできる簡単 健康生活法と運動」

7月8日 「自宅でできる簡単 心のケア」・閉講式

## 仙台市教育委員会との学校支援ボランティア懇談会



6月14日（火）第5体育館2F会議室において、仙台市教育委員会の方々が来訪し、今年度の学生ボランティア協力体制について懇談会を実施しました。仙台市教育委員会との連携は平成15年10月に連携協力事業の覚書を締結してから毎年、教育支援・部活動支援・学校行事補助などの依頼に応じ、学生の派遣を行なっています。

仙台市教育委員会の方々の挨拶では、「3.11の東日本大震災で津波や地震被害でおおきなダメー

ジを受けた学校施設があるなか、通常に近づけるため教育体制を整えながら今年度の授業を実施している状況です。引き続き仙台市の各学校の支援として、指導者をめざす意欲ある学生の皆さんをお待ちしています」との話がありました。また、昨年度も3000名規模陸上記録会における学校支援ボランティアで、幅跳びの模範演技を本学の陸上競技部学生が実演したことに触れ、ダイナミックな着地や、競技を行なう姿を目の当たりにし、小学生が驚きとともに憧れとなり、大変良い影響を与えてくれました。との話もありました。大学側からは、日頃から教育実習などで大変お世話になっていること、引き続き学生たちが教育現場に携わる機会をいただいていることに御礼を申し上げるとともに、教育実習へ臨む姿勢にもよい変化をもたらしていることなど、今後も引き続きご指導をお願いしたい旨が話されました。

## 運動栄養学科の包丁伝達式



6月17日（金）に運動栄養学科で開設当初から続いている包丁伝達式が行われました。「おいしい料理をつくれる栄養士になってほしいこと」と、「包丁を保管するロッカーへの施錠徹底」に

ついて話しがされた後、藤井学科長より新入生82名に対して名前入りの包丁が手渡されました。包丁を手にした千葉ありささん（東京都・明星高校出身）は、「自分の包丁をもらえて嬉しい反面、先生から包丁の危険性の説明を受け、取り扱いに十分気をつけようと思いました。将来は栄養士になることを目指しているのでこれからの実習等で技術を基本からしっかり学んでいきたい」と話していました。



翌週の24日からは岩沼市にある『亀織の郷 今昔庵』の斎藤 勝氏を講師に招いて「調理技術講習会」を4週にわたって（クラス毎2回受講）開催し、調理に携わる者としての心構えや、包丁の研ぎ方・切り方などを学びます。

## ヨークベニマルに藤井運動栄養学科長・丹野准教授がポップで登場



運動栄養分野において高い知見を有する藤井久雄教授、丹野准教授が専門家の立場からコメントしたポップがヨークベニマルの商品ケースを飾っています。ポップでは「ワカメ」、「まぐろ」、「野菜ジュース」、「卵」などの食品が健康に与える効果を紹介し、店側にとっては商品の販売促進が期待されます。本学にとっても、「仙台大学」と「運動栄養学科」が消費者の目に付く箇所に飾られるため、大きな宣伝効果となることが期待できます。

ヨークベニマルは福島県郡山市に本社を持ち、福島(67店舗)・宮城(43)・山形(15)・栃木(20)・茨城(26)の5県で171店舗（2011年5月現在）を展開しているスーパーマーケットです。既にポップを飾っている店舗もあり、計画ではヨークベニマル全店で掲示される予定です。期間は6月1日から3月31日までの予定で、月毎に紹介される商品が検討されます。

## 第5体育館に海外提携大学から頂いた寄贈品を陳列



先月完成した第5体育館の1F北側に国際交流で頂いた各国のお土産品などの数々が特設コーナーに設けられました。

これまでに海外提携先との交流の中で頂いた貴重な品を陳列しています。是非ご覧ください。

## 留学生が日本文化をまなぶ「華道(生け花)」体験



6月22日(水)C棟2F実験室において、留学生の華道(生け花)体験が実施されました。これは留学生が日本滞在中に日本文化に触れることで、

日本への理解をより深めてもらおうと、元教授・現在非常勤講師の阿部武彦先生の留学生対象授業「日本の文化」で実施しているものです。今年も熊坂繁太郎元教授・現在非常勤講師の奥様で華道家の熊坂智恵子先生をお招きし、小原流華道の基本形から四季折々で楽しむ日本の華道を座学で学び、そのあと留学生一人ひとりが生け花を体験しました。

大学院1年の高原さん、顧一俊さんに体験後話を聞くと、「白石駅の構内にも飾ってあったのを思い出しました。3角形で表現する花型を、父(真)・母(副)・子(体)と教わりました。母は父に寄り添い、向きあう形を教わり、素晴らしい意味だとおもいました」と話していました。

## 平成23年度 入試懇談会



6月24日(金)に仙台国際ホテルにおいて仙台大学入試懇談会が行われ、東北6県および栃木県より85校86名の進路指導関係教諭の出席を頂きました。朴澤学長より新教養教育の概要の説明、5学科長より各学科の特色と教育内容、中房入試創職部長より学生の受入れ方針、渡辺入試担当課長より入試内容について説明を行いました。

懇談会終了後にも多くの先生方が個別で相談に訪れる姿がありました。

## 平成23年度 保護者会役員会



6月18日(土)に江陽グランドホテルにおいて仙台大学保護者会役員会が開催され、保護者会から高橋武彦会長をはじめ役員19名と、大学から朴澤学長はじめ23名が出席しました。会では平成22年度の事業報告、決算報告書、会計監査報告がなされた後、平成23年度の役員(案)が選出されました。

## 学都仙台コンソーシアムの広報サポートスタッフが決定



左から井上さん、横山さん、大黒さん

学都仙台コンソーシアムでは、学生の視点による広報活動を目的に、各加盟校に所属する学生から「広報サポートスタッフ」を募集し、これまで、フリーペーパー「G.S.C」の発行や公開講座PR動画の作成などの活動を行っています。平成23年度の広報サポートスタッフは8名で、その内3名が本学の学生です。

学都仙台コンソーシアムHP

<http://www.gakuto-sendai.jp/>

横山紘基さん（スポーツ情報メディア学科2年 / 山形南高校出身）

元々、スポーツとメディアに強い関心がありました。進学時にその両方を学べるスポーツ情報メディア学科が仙台大学にあることを知り、自分の将来が探せることができるのではないかと思います。実際に入学してみると、授業では報道機関やプロスポーツの現場での実習や、研究所が主催する多種のアカデミーが開催されており専門的な知識が学べて充実しています。今回の学都仙台コンソーシアム広報サポートスタッフも学科で学んでいることを活かせることと、他大学の学生と交流が持てることに魅力を感じ、応募しました。

今年は仙台大学から広報サポートスタッフに3名が就任しました。私と同学年の井上悟志さんと昨年も活動した4年の大黒ゆきこさんです。活動はこれからですが、1年間楽しんで推進したいと思っています。

## 「リスペクト！おかげさまプロジェクト」に中国からの留学生参加



仙台大学、ベガルタ仙台、宮城県サッカー協会、ベガルタ仙台ホームタウン協議会が3年前から推進している「リスペクト！おかげさまプロジェクト」。現在、競技の垣根を越えて、さまざまなアスリートや指導者から応援メッセージ入り色紙を頂戴し、被災者の方々にお届けしています。6月15日に行われたベガルタ仙台VSガンバ大阪（ユアテックスタジアム仙台）の活動に、本学大学院に在籍する中国の留学生たちが初参加。

「おかげさまのこころ」を伝える行進（写真）に参加したり、東北サッカー未来募金の呼び掛けにも積極的に加わったりしています。この日、リーダーを務めた徐一文さん（本学大学院2年）は

「とてもいい経験になりました。楽しかった。ありがとうございます。」と感謝の気持ちを表しました。

なお、これらのおかげさま色紙はユアテックスタジアム仙台や本学で展示したあと、仙台市に寄贈し、被災地での巡回展示を予定しています。

「リスペクト！おかげさまプロジェクト」とは？

「おかげさまは感謝をあらわす魔法の言葉」を合言葉に、私たちの気付かないところでスポーツを支える、多くのひとやものに感謝を示すボランティア活動。父の日や母の日、敬老の日やお盆期間中に、同じスポーツファミリーや先祖に「ありがとう」を伝えるメッセージを集めたり、スポーツが行われる場をひとが集う気持ちのよい「場」にしようと、あいさつ運動を実施したりなどしています。

また、仙台大学のある柴田町に日頃の感謝を示そうと、商店街の皆さんに活動ポスターの掲示をお願いし、おかげさまロードを広めています。

（仙台大学スポーツ情報メディア研究所）

## 女川第一中学校より御礼状

女川第一中学校の生徒一同から本学に御礼状が届きました。これは、支援物資として、(株)GANBAXから提供頂いたジャージ・Tシャツを提供したことに対するものです。

女川第一中学校には陸上競技部からのご依頼で、6月20日(月)にユニフォームの上下セットや雷管ピストル、陸上バトンをスポーツ物資としても送っています。これも(株)GANBAXの他、横川教授、宮城教授から提供いただいたものです。

(内容)

皆様の支援のおかげで元気は取り戻しつつあります。授業も部活動も本格化してきました。大事に着させていただきます。ありがとうございました。

女川第一中学校 生徒一同

## 医療サポートボランティアに対して亶理町の齋藤邦男町長から御礼状

謹啓 梅雨の候 貴校におかれましてはますます清涼のことお喜び申し上げます。日頃、本町行政の推進に資しまして、格別のご指導ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。さて、貴校及びスタジアムの皆さまには、この夏の東北地方全域にわたる豪雨災害による被害が甚大に及んでまいりました。被災した町民に心よりお見舞い申し上げます。この感謝の気持ちを、半信半疑に書く一紙に託させていただきます。本町では、この夏多くの町民の命と財産を奪われる一瞬にして失ったものに、現場者をはじめ多くの公共施設や産業被害を受けている事実。災害関連施設等にも多大な被害がもたらされた。そして、今、お伝えしたい出来事と監視もついで、またの復興に向けての第一歩を踏出したところであり、被災された方が一日も早く被災前の生活に戻れるよう、町民の力を合わせ、九斗全ての復興をやり遂げたいと考えております。この先、復興にはかなりの時間を要するものと思われ、いかに復興した亶理町を築いていけるかを存じます。最後に申し上げます。貴校のますますの健康と祈り申し上げます。また、スタジアムの皆様にもお伝えいたします。どうかお祈りし、お礼のあいさついたします。平成二十三年六月十日 亶理町 町長 齋藤 邦男 仙台大学健康福祉センター長 齋藤 邦男

橋本教授をはじめとする医師免許・看護師免許を持つ教職員で行ってきた亶理町での医療サポートボランティア活動に対して、亶理町の齋藤邦男町長より御礼状が届いております。亶理町での医療サポートボランティアは4月初旬にスタートし、自衛隊の診療所がお休みする毎週月曜日に避難所を回って活動してきました。5月に入ると亶理町所在の医療機関が再開したため、5月中旬の活動で終了させています(瓦礫撤去作業は活動を継続中・エコノミクスクラス症候群予防体操指導ボランティアは仮設住宅に移る方が多くなったため、活動を休止中)。医療サポートボランティアは現在、美里町・女川町での活動を継続しています。

## 石巻市立大須中学校より御礼状

5月28日(土)に本学でバレーボールとバドミントンの部活練習および指導を受けた石巻市立大須中学校の生徒より御礼状が届きました。

拝啓 五月二十八日にお忙しい中 体育館を借していただき、練習にバドミントンをしていただきありがとうございました。仙台大学で練習していただき、なかつたスイングやクリアなどができるよつになりました。自分でもできるよつになりました。良かったです。

直営さんには、理髪さん水なさんには、打ち方など教えてもらって、できるよつにもなり、楽しかったです。大須中バドミントン部の目標は、中総体で優勝し、県大会に行く事なので、教えてもらったことを活かしてがんばりたいと思います。本当にありがとうございました。女川



拝啓 雨の晴れ間に目をさすあじさいが鮮やかですが、いかにお過ごしですか。先日は練習や試合ありがとうございました。僕はバス、スパイクなどの練習が楽しかったです。試合では、仙台大学さんのおもしろい声を聞いて、フリーストリングの目を見て、僕も声を出して、うと思いました。

また、仙台大学の学生食堂で食べた昼食は、栄養が豊富で、とてもおいしかったです。敬啓 大須中学校



(この他、生徒一人ひとりからメッセージが寄せられています。)

## 奥埜博亮さん(体育学部4年)がJ1ベガルタ仙台とプロ契約

～ 本学から16人目のJリーガー誕生～

サッカー部の奥埜博亮さんのJ1ベガルタ仙台入団が内定いたしました。奥埜さんはベガルタ仙台のジュニアユース、ユースなどの下部組織を経て本学に入学。大学では1年目からチームの中心選手として活躍し、2年からはJリーグ特別指定選手としてベガルタ仙台にも所属していました。ベガルタ仙台と本学は、2003年にユース出身者の受入れで提携し、選手育成を行ってききましたが、奥埜さんはベガルタ仙台の下部組織から本学を経てトップチームに舞い戻るはじめての選手となりました。

6月7日(火)に本学を会場に共同記者会見を行い、その席で奥埜さんは「小学5年から過ごしている地元のチームに入団できてよかった。仙台の梁選手や関口選手のように代表に関わる選手になりたい。」と抱負を述べました。

本学としては奥埜さんが16人目のJリーグ選手輩出となります。



## サッカー部が被災地の復興を背負ってプレー

～ 無償でユニフォームに地元企業名をプリント～

サッカー部が被災地となった宮城県内の企業名をユニフォームにプリントして全国大会に出場します。これは、サッカー部員が「多くの方が被災した中で、自分たちはサッカーをできていいのか?」、「自分たちも被災した方々に何かできないか?」との疑問に向き合い、学生同士で話し合っ

合って導き出した答えが「ユニフォームに地域企業名をつけてプレーする」ことでした。部員の中には震災で親を亡くした者もあり、震災当時は被災者として生活もままならない状況もありました。しかし、「自分たちよりも苦しい生活を強いられている方々が多くいらっしゃる。自分たちがプレーすることで被災地に勇気と、震災で打撃を受けた地域企業の復興に寄与をしたい」という思いの中で考案されました。

県内の企業に無償で企業名をつけることを提案し、笹かまぼこの佐々直と、伊達絵巻の菓匠三全から申し出がありました。この間にスタートした東北地区予選では無敗で優勝し、全国大会出場を決めました。

ユニフォームに入れる企業名は、サッカー部が負担するものと考えていましたが、ユニフォーム

を製作する加茂スポーツから「自分たちも復興に協力したい」との申し出を受け、プリント代を無料としていただくこととなりました。

学生の発案ではじまった活動で、震災を後押しする方々の輪が広がっているのは素晴らしいことです。

このユニフォームを着た選手たちが全国の舞台で活躍することで、この取り組みが更に広がるよう部員たちは強く願っています。

ユニフォームの着用は7月3日から開催する総理大臣杯からで今年の初戦は強豪の流通経済大学。しかし、本学は昨年の同大会で全国3位となっており、被災地の思いを背負って選手たちの全力プレーに期待が寄せられます。



## 小笠原沙織さんが世界U-23ボート選手権代表に決定



漕艇部女子キャプテンの小笠原沙織さん（体育学科4年/北海道網走南が丘高校卒）が7月21～24日にオランダ・アムステルダムで開催される世界U-23ボート選手権大会の代表に決定しました。出場する種目は女子クォドルプルで、この種目はオール2本を用いた4名の漕ぎ手が、コックス（舵を切る役割を果たす人）なしで距離2000mを競います。

小笠原さんは「自分のセールスポイントは持久力と瞬発力」と話しており、実際にエルゴメータ（ボート漕ぎ式体力測定装置）でも学生1位の成績を残しています。「最近になってパワーを無駄なく艇に伝える感覚がわかってきた」と話すように、乗艇する度にタイムを伸ばしており、日本代表として世界での飛躍が楽しみです。

6月1日（水）には阿部肇監督と共に朴澤学長にU-23代表選出の報告を行いました。

### 小笠原沙織さん

仙台大学に進学したのは進路を決定する時期に、地元が同じ北海道である仙台大学漕艇部OGの久保佳子さん（平成19年度学部卒、21年度院卒）と練習を一緒にする機会があり、仙台大学を勧められたのがきっかけとなりました。元々、田舎育ちの自分には、自然に囲まれた仙台大学の環境は合っていました。監督・先輩に恵まれ、人としても成長させていただきました。世界U-23では日本代表としてメダル獲得を目標に頑張ってきます。また、その後に行われる8月のインカレでも仙台大学で成長した証をクォドルプルでの初優勝という形で残したいです。

## 漕艇部の松岡 真さんがU-19日本代表に

～8月の世界ジュニアボート選手権代表に～



6月12日（日）に熊本県菊池市斑蛇口湖ボート場で行われた平成23年度 JOCジュニアオリンピックカップ・第9回全日本ジュニアボート選手権大会・（兼）2011年U-19日本代表選手選考会において、松岡 真さん（体育学科/宇和島水産高校出身）が第3位となり、2011年U-19日本代表に決定いたしました。

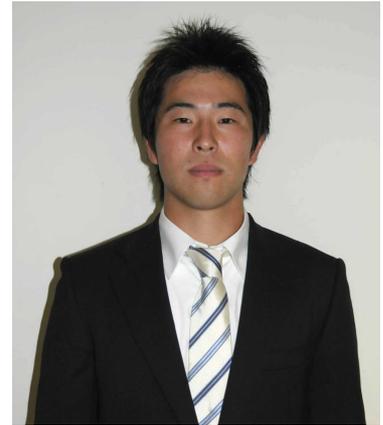
代表決定に伴い、松岡さんは8月にイギリス・ロンドンで開催される世界ジュニアボート選手権に出場します。日本代表が出場する種目はシングルスカルと舵手なしクォドルプルで、強化合宿を経て出場種目が決定します。

## やり投げの佐藤寛大さんがユニバーシアード代表に決定

陸上競技やり投げの佐藤寛大さん（大学院1年）が、8月に中国深圳で行われるユニバーシアード夏季大会の代表に決定しました。更に、陸上競技選手団のキャプテンを務めることになりました。

佐藤さんは今大会が初の代表選出ですが、以前から日本代表として活躍することを大きな目標としてきました。6月17日に行われた日本学生個人選手権でも大会新記録で2連覇しており、初の海外の舞台でも上位入賞が期待されます。

なお、陸上競技部からのユニバーシアード代表選出は、2001年の北京大会で400m（7位）と400m×4（3位）に出場した佐藤光浩選手（現：富士通陸上競技部副部長）以来、2人目の選出です。



## 頑張ろう東北！東日本学生体操競技 仙台大学支援大会



6月19日（日）に本学体操競技場において「頑張ろう東北！東日本学生体操競技 仙台大学支援大会」が開催されました。これは、学生体操の男子1部リーグに所属する日本体育大学、順天堂大学、早稲田大学の3校が、被災地となった仙台大学体操競技部の復興支援を目的に企画してくれたものです。本学を含めた4校は毎年上位を争っている大学ばかりで、震災の影響により中止となった東日本学生体操競技選手権（東日本インカレ）の代替試合としての意味合いも含んでの開催となりました。

試合結果は男子団体総合で本学が優勝、個人総合においても宗像 陸さん（体育学科4年）が優勝（87.5000点）、富澤祐太さん（体育学科3年）が第2位（85.550点）となりました。この順位はインカレでの順位の大きな目安となるため、これからの学生の飛躍が期待されます。

### < 男子団体総合 >

- 第1位 仙台大学
- 第2位 日本体育大学
- 第3位 順天堂大学
- 第4位 早稲田大学

### < 個人総合 >

- |     |        |        |
|-----|--------|--------|
| 第1位 | 宗像 陸さん | 仙台大学   |
| 第2位 | 富澤祐太さん | 仙台大学   |
| 第3位 | 松岡龍介さん | 順天堂大学  |
| 第4位 | 宮原 敏さん | 日本体育大学 |
| 第5位 | 佐藤 亘さん | 仙台大学   |
| 第6位 | 若林裕樹さん | 日本体育大学 |
| 第7位 | 菅野 哲さん | 日本体育大学 |
| 第8位 | 石原 大さん | 仙台大学   |